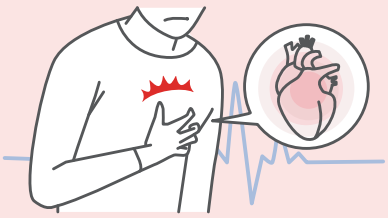
公益財団法人 心臓血管研究所 付属病院 広報誌

心研 Voice

2024 winter
vol.11



胸の痛みの原因が分からない!?

最新の「冠微小循環障害(CMD)検査」受診をおすすめします

胸の痛みが続く場合、冠動脈異常の可能性があります。冠動脈の病気は、血栓(血の塊)により冠動脈が急激にふさがってしまう心筋梗塞などの急性冠症候群や、運動時に胸の痛みが起こるような慢性冠症候群の2つに分けられ、慢性冠症候群の時期に適切な治療を行わないと、急性冠症候群への移行リスクが高まります。

当院では、従来の診断ではなかなか発見できなかった慢性冠症候群の要因となる、冠微小循環障害(以下:CMD)を正確に診断できる最新の検査機器「CoroFlow™」を2024年6月より導入しました。

心臓の働きと冠動脈

心臓には、脳や臓器などの全身に血液を送る役割がありますが、心臓を取り巻く3本の血管「冠動脈」によって、自らの心筋(心臓を動かす筋肉)にも酸素と栄養を含んだ血液を運んでいます。冠動脈に異常が生じて心筋に血液が十分にいきわたらなくなると、心臓は酸欠状態に陥ってしまい、胸に痛みや圧迫感、締め付けられる感覚などの症状が現れます。

慢性冠症候群の要因を明確化

慢性冠症候群の大きな要因

1. 太い冠動脈の狭窄・閉塞
2. 太い冠動脈の一時的な過剰収縮
3. 微小冠動脈の異常

※重複する場合もあります。

冠動脈の奥深くには、心臓の血管の95%を占めるといわれている「微小冠動脈」という細い血管があり、心筋の隅々まで血液を供給しています。通常のカテーテル検査では微小血管が細かすぎるため見えないことが多く、微小冠動脈に異常であるCMDを発見できず、胸の痛みの原因がはっきりとしないケースがあります。しかし、新しく導入した血行動態測定医療機器プログラム「CoroFlow™ カーディオバスキュラーシステム」によってCMDの診断ができるようになりました。

↑温度センサー付き
ガイドワイヤーと専用ソフト

↑観血血圧モニタ用
プログラム解析画面

※画像提供:アボットメディカルジャパン合同会社

血行動態測定医療機器プログラム「CoroFlow™カーディオバスキュラーシステム」

カテーテル検査中、冠動脈に温度や圧力を測定できるガイドワイヤーを挿入し、専用のソフトウエアを用いて検査を行います。通常のカテーテル検査に加えて5~10分の時間が追加となりますが、CMDを正確に診断することができます。

胸部症状のある方は、ご相談ください

CMD罹患の患者さんは、心筋梗塞などにつながるリスクがあります。そのため、胸の痛みの原因が分からないケースにおいて、新しい検査システムによりCMDが明確になることで、適切な治療へつながる可能性が高まります。何より、微小冠動脈の異常があるのかないのかが分かることは、患者さんの安心につながるものと考えています。

この検査についてご不明な点がありましたら、気軽に担当医師にご相談ください。

当院は循環器専門病院として、これからも患者さんのために最良の医療サービスを提供していきます。

循環器内科
冠動脈疾患担当部長
松野 俊介

もしも具合が悪くなったら…

03-3408-2151

※急患の方は24時間随時診察いたします(まずは受付が対応し、状況に応じて医師・看護師におつなぎします)。

Interview

入退院支援センター設立1周年記念

患者さんに安心と快適をお届けするため、多職種連携でサポートしてまいります

退院を見据えた切れ目のない支援を行う「入退院支援センター」の設立から1年。今回は小林センター長に、取り組みや患者さんとの関わりについてお話を伺いました。

入退院支援センター長
兼看護師長
小林 智明（ちあき）

―設立された経緯を教えてください。

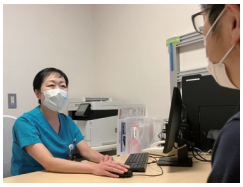
従来、患者さんの入退院時は、病棟職員が説明や手続きをしていたため、非効率な移動などで患者さんには不便が生じていました。スムーズな入退院を実現するため、ご案内窓口を一元化することになりました。最近では患者さんから「不安なく入院できます」などのうれしいお声もいただいています。

―具体的な業務内容は？

入院の予約時や当日に、看護師と薬剤師が患者さんやご家族と面談する入院支援業務と、入院患者さんが安心して退院後の療養生活を送れるよう支援する退院支援業務を行っています。

―看護師による面談では何を意識されていますか。

身体的な状況の把握だけではなく、退院後の自宅での過ごし方などについてを説明します。また、外科手術を受ける方の場合は、医師説明の場にできる限り同席し、不安の除去に努められるよう、個々に応じた丁寧な介入を心がけています。特に手術後の痛みに対する不安や生活状況を共有し、退院後の生活がイメージできるよう支援しています。



―薬剤師はどのような役割をされていますか。

入院前面談では、まず服薬状況の把握をします。次に、手術などの治療前に休薬が必要な場合は、休薬についての説明と指導を行います。入院日と休薬日が一目で分かるよう、手づくりの「カレンダー風メモ」をお渡しするなどし、高齢者の方に対しても優しい工夫と声かけを心がけています。

―目指すセンター像はありますか。

入院に関する業務に注力してチームスキルを上げてきましたので、今後は退院に関する業務もさらに充実させていきます。医師や看護師などと連携しながら、患者さんが安心してご自宅や他院、施設に戻っていただき、ご家族にも喜んでいただける対応を続けます。

所属メンバー

N看護師

病棟や外来勤務の経験が豊富で、具体的な生活指導にも定評がある。明るく、ハキハキとした対応で、患者さんからの信頼も厚い。

薬剤師

ベテラン薬剤師。面談がついつい長くなってしまうほどの聞き上手で、患者さんたちの頼れる存在。

看護師（看護主査）

インターベンションエキスパートナース資格（カテーテルに関して高度な技術と専門的な知識を有する）を持ち、入退院支援のリーダーとして活躍。具体的かつ丁寧な説明で、患者さんの不安軽減に努めている。

スペシャルサイトのご案内

ホームページではさらに
たくさんのお役立ち情報を
お届けしています！

過去の広報誌はこちらから
https://www.cvi.or.jp/others/magazine.html

心電図異常と言われたら
心研コラム
施設のご紹介

公益財団法人
心臓血管研究所 付属病院
〒106-0031　東京都港区西麻布3-2-19

お問い合わせ先 TEL 03-3408-2151
受付時間　平日8:30～17:00（祝日・年末年始除く）

心研Voice 11号　発行月／2024年11月　発行／公益財団法人 心臓血管研究所 付属病院